



第 53 号

令和7年1月1日

泉南市 民生委員協議会
児童委員

会長 杉 本 昇

編 集

泉南市民児協広報部会



学べる防災ステーション前での館長の話



奈良県「大滝ダム」

あけましておめでとうござい
ます。

委員の皆さまには、地域の身近な相談相手として、行政や関係機関に繋ぐ役割を果たしていただいております。また、子育てサロンや各小学校の放課後「遊び広場」も活発に活動しています。今年12月には一斉改選を迎えますが、可能な限りさらに継続していただくよう望みます。

昨年から社協の「ひとり暮らし高齢者」の見守り活動に伴い、避難行動要支援者の方々へも可能な範囲で見守り確認をお願いしています。

昨年の能登地震・豪雨と被災した市町はわが市と同等及び小さな行政組織です。民児協も平常時から災害等に備え、地区との連携を構築していく必要があると考えます。

委員一同、力を合わせ、さらにステップアップできる民児協にと、努力していきたく、皆さまのご協力をよろしくお願いします。

合掌

会 長
杉 本 昇

子ども食堂

泉南市子ども食堂ネットワークに登録している子ども食堂は10か所ある。今回はその中で、古くから運営している鳴滝地区「ほしぞらみんな食堂」と、最近始まった樽井地区「やまのい食堂」取材した。

広報部会 数内美智

ほしぞらみんな食堂

主催する(NPO)ほしぞら&ふれあいハウス鳴滝は9年前に「支え合いのまちづくり」を目標として地域の方々と設立した。当初は、高齢者を対象に昼食・配食サービスが中心だったが、学校との交流から、学習支援を行うようになり、市民交流センターで6年前から「学習支援いっば」を始めた。

毎週月曜日に大学生を中心とするボランティアが、常時10名程度で市民交流センターの部屋を借りて指導している。登録している各20名の小・中学生を対象とし、同所で実施しているの

が「ほしぞらただいま食堂」だが、今回は取材できなかった。

その後、学習支援を伴わない子どもたちを対象とした子ども食堂として4年前に「ほしぞらみんな食堂」を「ほしぞら&ふれあいハウス鳴滝」で始めた。第1・2火曜日に実施している。登録者は280名程度で、毎回80名程が利用している。

実際の運営は若干のスタッフと地区のボランティアで行っており、食材は購入のほか、外食チェーン店からの定期的なものを始め、幅広く提供していただいている。今では子ども・高齢者・外国の子どもとその家族へと輪が広がり地域の居場所となりつつある。



やまのい食堂

主催する済生会は、恩賜財団と冠されているように明治天皇が生活困窮者に無償で医療を行い、それによつて生(いのち)を済(すく)おつと、時の桂太郎総理大臣に命じ、その資金の一部とするよう私的なお金を下賜されたことから設立された。その経緯から、現在でもその理念を引き継ぎ子ども食堂の立ち上げにも抵抗はなかった。

プレオープン2回を試行し、登録者は140名を超え、現在半数程度が利用している。当面、他と重複しないよう毎月第4金曜日に開催。樽井区の全面的な支援で、防災コミュニティセンター



の建物を借用している。元幼稚園の建物なので、大小の部屋も複数あり、食堂・遊び部屋・勉強部屋を別々にしている。

運営は済生会職員、民生委員を含むボランティアで行っている。利用者は、小学生以下の親子連れが多く、子どもだけの利用は推奨していない。遊び部屋が好評で、今のところ勉強部屋は殆んど利用されていない。

食材は提供と購入の両方で、フードバンク大阪や企業の余剰物質を活用している。一般からの食材提供を受ける「フードドライブ」をイオンモールと共同で3ヶ月に一度実施していく。



問題点と今後の展望

見学した子ども食堂は、どちらも単独では採算が取れておらず、他の事業との総合的な運営で何とか継続出来ているのが実情で、他の子ども食堂でも同様ではないかと案じられる。また、対象者の範囲を困窮する子どもにとどめず、広げていきたいという意向も共通していた。今後は、他の子ども食堂も取材し、理解を深めていきたい。



地区だより

西信達地区

中学生といっしょに

防災活動

西信達中学校は、海に近く台風の時には、高潮の被害が、地震の時には、津波、液状化の被害が想定されている場所でもあります。

中学生は、常に地元をベースに生活を送っているの



表彰状と認定証

避難所になる中学校のことを、一番良く理解している頼もしい存在でもあります。

災害から身を守るため、地域を守るために西信達中学校での「防災レクリエーション」に、私たち民生委員児童委員も参加させていただきました。

体育館でのダンボールベツト作り、簡易トイレの設置等「地域の抱える課題」に対して、中学生の皆さんの熱心な行動に、さすが勉強されていると思います。

令和5年度には、内閣府主催の「防災教育チャレンジカッププラン」の実践校に認定され、支援を受けて、防災をテーマとした出前授業に、NHKの井上二郎アナウンサーが講師に来ていただきました。

「防災ゼミ」の生徒はオンラインで、岡山市の中学校と防災をテーマとした交流

会を行い、石巻市の中学校の発表会を視聴するなど、知識習得を図っています。

地域の「ふれあいフェスタ」では防災ブースに出店し、非常食メニューの冊子を配りました。学校、地域を巻き込んだ「楽しみながら防災を！」を合言葉に活動を続けて、内閣府から、「防災教育優秀賞」を与えられ、大阪府民児協連合会から「子どもさわやか賞」を併せて授与されました。

校長先生や顧問の先生から「地域の方々に応援してもらうことで、誰かの役に立っているという実感を、生徒自身が感じることができ、活動の原動力となっています」と私たちも感謝されました。

委員長 居倉 順子

一丘地区

経験を活かして

令和6年4月に民生委員児童委員の委嘱を受けて、早くも半年以上が経過しました。

活動は主として「ひとり



一丘団地風景

暮らし高齢者」の見守り訪問で、16名を担当しています。訪問記録の用紙や留守宅伝言メモは地区で統一された様式のものがあるので、私は安否確認と相談ごとなどを聞いています。訪問してみて感じたことは、ひとり暮らしで身体が不自由な方々が多いということです。

私自身が身体の不自由な祖母に育てられたこともあり、またデイサービスで来所者の介助の仕事もしていました。これらの経験を活かして、高齢者の方の話し相手となり、手助けを必要とされている方々の力になりたいと考えています。

前谷 優香

雄信地区

地域の方との

繋がりを大切に

当地区の民生委員児童委員を委嘱されて3年目を迎えます。初めはどんな活動をするのかも知らず不安なスタートでした。

ひとり暮らし高齢者の見守り訪問だけではなく、小・中学校への訪問や赤ちゃん訪問、青パト乗車等いろいろなことに参加させてもらい、今まで知らなかった地域のことをたくさん教えてもらっていると実感しています。

高齢者を訪問してお話をさせてもらうと、皆さん元気に日々を過ごされていることに安心します。高齢化が進む今、地域での見守りの大切さを実感します。これからも地域の方との繋がりを大切に活動していきたいと思っています。

九鬼 育子



樽井地区

C地区ケア会議に参加して

ケア会議って何？地域の人が地域の課題を話し合う会議です。C地区は泉南中学校区の樽井・雄信地区で構成され、毎月第3月曜日に地域包括なでしこりんくう地域交流室にて開催されます。

樽井地区は老人クラブ・婦人会・福祉委員・民生委員が相談協力員として参加しています。高齢者福祉サービス検討、困難事例や

各サロンの報告を行ないます。特殊詐欺や高齢者救急の講習会で勉強しました。私の関心事は誰もがなる可能性がある認知症です。

泉南市で生まれ育った私ですが地域のことは知らないことばかりでした。男里浜区では毎月1回認知症カフェが開催され、WAOパートナーが中心となり認知症になってもその人らしく生きる居場所作りの素晴らしい活動を知りました。

私も家族の介護を経験しましたので、行政・ケアマネジャーや専門職との連携の大切さを今後の活動に生かしていきたいと思います。

木下 洋子

信達地区

一年生

令和6年春に、民生委員児童委員を委嘱されました。

「こんにちは、はじめまして」ひとり暮らし高齢者宅への挨拶が、私の初めての活動でした。



田園風景

初対面の方もいらつしゃれば、ご近所でもよく存じあげている方もおられます。最初は何をお話ししようか、どんなふうに接しようかなどと緊張の連続でした。でも、幾度か訪問を重ねて、互いの趣味の話などで盛り上がり、大笑いすることも。これからは、身近な話題を手掛かりにして、安心して困りごとなどもお話しただけの関係を築ければと考えています。

この地域においても、子ども数は減り高齢者人口は増え続けています。人の「つながり」を大切に

て孤立をなくし、支援を必要とされる方に少しでもお役に立てたらとの思いを強くしています。

東 美佐代

鳴滝地区

地域の方に恩返し

令和4年に民生委員児童委員として委嘱され2年が過ぎました。

初めての活動は、前任者とひとり暮らしの高齢者宅への訪問でした。ふれ愛弁当やおせちの配達、訪問を通して、いろいろ話を聞く中、必要な方には、緊急通報装置設置、介護認定、自

動通話録音装置、障害者減免等の申請のお手伝いをしました。

また、民生委員同士で地域の安全のため巡回する中、鳴滝小学校のグリーンベルト沿いに倒壊しそうな危険な空き家があり、地域の方々にも協力して頂き要望書を泉南市に出し、訴え続けて2年目、昨年8月に土地の所有者がやっと取り

壊してくれ、安心しました。

私は30年前、仕事の関係で鳴滝地区に引っ越しをしてきました。地域の方には今までいろいろとお世話になり本当に感謝しています。今度はお返しをする番だと思い、私のできることを精一杯がんばります。

泉 ユミ



グリーンベルトの通学路



新家地区

挨拶にほっこり

当地区の活動に新家小学校・新家東小学校の放課後「あそびひろば」の見守りがあります。児童福祉部会・主任児童委員が中心となり、各回5〜6名ずつ参加しています。

時間になると皆元氣よくやって来て、ボール遊び・バドミントン・なわとび・しゃぼん玉等で遊んでいます。私は、体を使う遊びにはついていけないので、



新家東小学校の「あそびひろば」

カードゲームやオセロに参加しています。

生徒との交流は楽しかったです。青少年センターの方やCIR（国際交流員）の方たちの活動に感心させられました。

別の日、下校時の児童に出会いました。顔見知りではないので、声は掛けず通り過ぎようとした私に「こんにちは」と声があり「おかえり」と返した時、ほっこりした気持ちになり、学校内外の見守りに通じていると思いました。

辻 二美代

砂川地区

お役に立ちたくて

私が初めて認知症の方への対応をした時のことです。委嘱から2年目を迎えた頃、近所の顔なじみでひとり暮らしの方の来訪がありました。

各種の手続きを教えてほしいとのことでしたので、いろいろ確認したところ、すでにご家族により手続き

は済んでいました。その旨をご本人に伝えましたが、その後もその方の来訪は続きました。「印鑑、家の権利書、通帳、車などがなくなつた」「主人が帰ってこない」といったことを、繰り返し聞くことが数か月続きました。

ちょうどその頃介護職の方から、このままでは心配なので施設に入っていた方がいいように動きたいとの連絡をいただき、悩んでいた私は是非にお願いしました。

まもなくその方は医療施設に入院することができ安心しました。介護職の方と包括支援センターのご協力に感謝するとともに、この経験を今後に活かしていきたいと思っています。

北村 正晴



部会だより

主任児童委員

お母さん方にエール!!

「私で大丈夫ですか？無理ですよ」と自信なくお受けした主任児童委員も、早いもので今年15年目になります。

今年度の「泉南市子育てフォーラム」は7月4日に「あいびあ泉南」の大会議室で開催されました。お土産の手作りおもちゃは、主任児童委員7名が4月頃から各自作って持ち寄ったもの

です。

私たち主任児童委員は、一生懸命子育てを頑張っているお母さん方の心の拠り所であればと、子育て支援に関わっています。

また、子育てフォーラムや赤ちゃん教室、子育てサロンで就学前の子どもたちと接し、お手伝いができればと思います。

徳野 やよい



泉南市子育てフォーラム



子育て支援部会

地域の皆さんで

子育て支援

10月の定例会では、泉南市家庭支援課の和田東子氏によるファミリースUPPORTセンター、通称ファミサポートについて研修がありました。

子育てを支えるファミサポートは、「育児をサポートしてほしい人」と「育児を応援したい人」の助け合いの会員組織で、平成28年6月の政府閣議決定に基づく制度です。

生後3ヶ月～小学6年生



ファミサポートについて研修

の子どもが対象で、育児をサポートしてほしい「利用会員」と育児を応援したい「協力会員」を合せて令和5年493名が登録しています。登録は「あいぴあ泉南」にあるファミサポート事務所でできますが、協力会員は有償のボランティアであり、活動前に研修が必要です。

協力会員と利用会員の親子は事前に打ち合わせし、会員同士の直接契約となりますが、保育園や習い事の送迎・一時預かりの依頼が多いそうです。協力会員の高齢化と増員が課題です。

木下 洋子

児童福祉部会

取り組みについて

当部会は1年間の取り組みとして、6月は小学校訪問、7月には中学校訪問、その他に研修会や意見交換、施設見学等を行っています。

今年度小学校の訪問時、

雄信小学校では始業前に「絵本の読み聞かせの会」の時間があり、全ての児童が真剣に聞き入っている姿が印象に残りました。

9月の部会は泉南市家庭支援課の方によると、前年度に子ども虐待の通報が泉南市で195件あったそうです。

ヤングケアラーについては中・高校生の8割が知らないことや、本人が気付いていないことが多いという話を聞き少し驚きました。子ども自身が悩みや相談を書けるようになっていいるハガキの紹介などもしていたきました。

また、新型コロナウイルスのため中止していた、市内4中学校の卒業式の見守り活動は昨年3月に再開しています。

これからも市・学校・関係機関と連携を取りながら、子どもたちが安心して過ごせるよう取り組んでいきたいと思っています。

部会長 石橋 英子

地域福祉部会

体験を生かして

7月の部会で、応急手当講習を受講しました。毛布を使って担架の作成、雑誌とネクタイを使った腕骨折の固定の応急処置、レジ袋が三角巾へ早変わり。次にAED講習、緊急事態の対応など実際に体験させていただきました。

受講した約2週間後、車で走行中に倒れている人を発見。呼吸はしていたものの反応なく119番通報をしました。とにかく助けなければ！とすぐ踏み出せた勇氣は、やはり受講の体験があったからだと思います。



研修会総括

また、9月11日には堺市総合防災センターへ研修に行きました。気づき、学び、実践を通して、災害時本当に必要とされる知識と技術を学んできました。リアルな煙・暗闇避難体験では、有毒な煙をバニラ風味にしてくれていたものの、あたり一面が煙に包まれたので避難できるのかと恐怖を感じました。

これらの貴重な体験を生かして、少しでも地域のお役に立てればと思います。

大津 集子



堺市総合防災センター

企画部会

豪雨体験

令和6年度民生委員児童委員管外研修で奈良県『大滝ダム・学べる防災ステーション』へ行ってきました。見学時に「豪雨体験（一時間に118〜600ミリ）をしました。体験して感じたことは『えっ？こんなもん？』『これくらいやったら泉南でもあるぞ？』という感じでした。ということは昔より災害級の大雨が増えているなと思います。けれど実際は、いつ、どこで、なにをしている時か、どれ位の時間続くのかわかりません。泉南市も平成30年、台風21号の経験があります。「警戒レベル3高齢者等避難」が出たときは勇気を

新任委員紹介

(令和6年8月1日委嘱)

一丘地区

磯田 信子

鳴滝地区

寺前 澄代



学べる防災ステーション



いざ、豪雨体験室へ

もって率先して避難して下さい。

災害時に民生委員は『避難行動要支援者』について、行政等の協力要請を受けてから可能な範囲の支援活動になります。①自助②共助③協働の理念の元に『地域ぐるみ皆で』災害に備えていきたいと思っています。

辻野 豊美

広報部会

スキルアップ研修

10月22日、大阪府社会福祉会館にて「広報活動のスキルアップ研修会」に参加しました。参加者は75名。講師は、読売新聞の戸田聡記者、講義内容は「記者が教える広報の基本と文章」についてでした。

3市町村の民児協だよりを添削してもらったのを元に、様々な指導をいただきました。その中に泉南市も入っていたのですが、非常に厳しい助言ばかりで冷や汗が出る思いでした。



スキルアップ研修

しかし、どの助言ももったもなことがばかりで、非常に勉強になりました。

・一文は60字以内にする
・大事なことから順に書いていく

など初歩的な話ですが、どれも納得のいくお話でした。

その後は、6名ずつのグループに分かれ情報交換をしました。それぞれの市町村が抱える問題や情報が非情に刺激となり、有意義な時間が過ごせました。

出口 千寿美

「あなたは大丈夫？」

11月15日、泉南市埋蔵文化財センターにおいてヤングケアラー支援研修が行われました。

一般財団法人「こもれび」の水流添真氏を講師としてヤングケアラーに対する認識を深め、また、市内の小学校の先生や市役所の職員の方々とグループワークを行い、実情や問題点について話し合いました。

ケアを担う子どもたちは、それが当たり前になっ



ヤングケアラー研修

てしまつて自身の負担に気づいていないこともあります。また、自分の辛さを話せないことも精神的にとてもし辛いとのことでした。

もし、周囲の大人が、遅刻や休みがちになつていたり、日々の食事の買い物をしている子どもに気づいたら「久しぶりに会う親戚のように」声をかけ、悩みや心情を話せる、安心できる大人であることがとても重要です。そして

「ご家族も大変だけれど、あなたは、大丈夫？」

と頑張りすぎている子どもたちを見守り、声をかけ、話を聞きたいと思いました。

村上 あかね

おめでとうございます

全国民生委員児童委員連合会会長表彰（10年勤続）

宅川 美恵子（新家） 居村 幸次（雄信）
岸野 吉美（砂川） 彦野 紀久子（樽井）
南 久治（信達） 丸谷 眞司（樽井）
木下 比津留（信達） 田中 知子（樽井）
金田 茂有紀（雄信）
片岡 アサ子 主任児童委員（砂川）
小林 ひかる 主任児童委員（西信達）
杉本 昇 会長（新家）

市民表彰

お元気ですか！

先輩



西信達地区

荒子 英範

民生委員児童委員を15年務め、退任して2年が過ぎました。在任中は、年に1度の管外研修や広報部会の研修は楽しいバス旅行で、会社勤めの時とはまた違った楽しみでした。

広報部会で一緒だった、AさんとMさんとは今では毎月モーニングやランチに出掛け、楽しい時間を過ごしています。民生委員になるまでは、仕事関係以外の人とはほとんど、付き合いがありませんでした。今はありがたく、2人に感謝し

ています。また、私には印刷物の仕事の依頼もあり、ボケ防止に（たまにボケています）頑張っています。今ではこの西信達地区が好きになってきました。地区の子ども園「くねあ」・幼稚園・小学校・中学校など西信達地区教育協議会だよりの発行のお手伝いをしています。民生委員を続けてきたことで、地域の皆さんと繋がる事ができて良かったと思っています。

泉南再発見



これは、何の石碑？

和泉山脈西端にある納経山の山頂にあり「お菊松烈女菊姿見の遺跡」と彫られています。

お菊は、1596年豊臣秀吉の甥、秀次と側室小督局の間に生まれましたが、生後数日で両親が処刑されたため、鳥取ノ莊波有手の豪族後藤六兵衛の娘として育てられました。

20歳になったお菊は、紀州山田村の山口兵内と結婚しましたが、新婚5日で夫は大坂夏の陣に出陣します。

お菊は敵の情勢を知らせる密書を大坂城に届ける途中、納経山山頂で敵を欺くため黒髪を切り落として男装し、その髪を松の木根元に埋めたため、いつしかその松をお菊松、その山をお菊山と呼ばれるようになりました。

その後、夫が討死にし、大坂城も落城、お菊も捕らわれの身となりました。自ら死を望み、紀の川の河原で処刑されたといわれています。

ひと汗かいた後の山頂からの眺めは圧巻ですよ。

編集後記

「民児協せんなん」第53号は、広報部員による取材や各地区・部会からいただいた原稿などを、数回の編集会議で校正をして完成させました。

校正作業では、配付された記事ごとに席順で一字一句読み上げます。読めない漢字で詰まればすかさず援護が聞こえ読み続けます。

読み終えると論客の部員たちが活発に持論を発言し合い、記事の校正を行います。

「正しく、読みやすく」をモットーに仕上げましたので、是非ともお読み願います。

菊地 敏男

